

慶應義塾大学

大学院

修士課程入試問題

(9月施行)

商学研究科

2015年度

(平成27年度)

慶應義塾大学大学院  
2015年度 商学研究科修士課程入試問題

分野別試験 商業学

下記の問題すべてに解答しなさい。

設問 1. 精緻化見込みモデル (elaboration likelihood model) について説明し、このモデルから得られる具体的な戦略的示唆について述べなさい。

設問 2. 現在の日本の流通システムの特徴について、マーケティング・流通に関する研究 (理論・モデル・概念など) を用いて論じなさい。

設問 3. 以下の用語すべてを 5 行以内で説明しなさい。

問 1. 広告計画 (advertising planning)

問 2. Copeland の商品分類 (Copeland's classification of consumer goods)

問 3. 参照価格 (reference price)

問 4. ブランド・アイデンティティ (brand identity)

問 5. 流通迂回率 (卸小売り比率: wholesale-retail sales ratio)

慶應義塾大学大学院  
2015年度 商学研究科修士課程入試問題

## 分野別試験 経営学

以下の設問すべてに答えなさい。

### 設問1

企業は、以下の三つの方向に巨大化する。なぜか。それぞれの理由を理論的に説明しなさい。

- (1) 水平的統合(horizontal integration)
- (2) 垂直的統合(vertical integration)
- (3) 多角化(diversification)

### 設問2

コーポレート・ガバナンス (Corporate Governance) 問題とは何か。

そして、株式市場(stock market)がコーポレート・ガバナンス機能 (function) をもつといわれているが、その意味を説明しなさい。

慶應義塾大学大学院  
2015年度 商学研究科修士課程入試問題

**分野別試験 会計学**

以下の設問1～設問4の中からいずれか2問を選択して答えなさい（例えば、設問1と設問2、あるいは設問1と設問4など）。なお、解答の際には、設問番号を明記し、1つの設問につき1枚の解答用紙を使用すること。

設問1. 通常の販売目的で保有する棚卸資産の評価基準について、以下の問1から問3まですべて答えなさい。

問1 企業会計審議会による「企業会計原則と関係諸法令との調整に関する連続意見書 第四 棚卸資産の評価について」では、棚卸資産の評価基準として低価基準（低価法）が認められています。これを認める論拠について5行以内で答えなさい。

問2 企業会計基準委員会による「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号）では、どのような種類の時価が原則として採用されているかを述べたうえで、当該会計基準では、どのような考え方に基づいて低価法が適用されるか10行以内で答えなさい。

問3 棚卸資産の時価として次のような内容を考えた場合、以下の事例①から⑤について低価法を適用した後の棚卸資産1単位当たりの金額を求めなさい。なお、正常利益はすべて販売価額の25%とする。解答に当たっては計算過程を示すこと。

「時価の内容：原則として再調達原価とする。ただし、販売価額から処分費用見積額を控除した額を上限とし、当該上限額から正常利益を控除した額を下限とする。」

事例	取得原価	再調達原価	販売価額	処分費用見積額
①	270,000	265,000	350,000	15,500
②	1,200,600	950,000	1,500,000	90,000
③	135,800	180,000	200,000	25,000
④	314,800	345,000	400,000	36,000
⑤	848,500	680,000	1,080,000	40,000

（金額はすべて棚卸資産1単位当たりに係るものである）

設問2. リース取引について、企業会計基準委員会による「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号)に基づいて、以下の問1から問4まですべて答えなさい。

問1 リース取引とは、どのような取引か4行以内で答えなさい。

問2 リース取引のうち、ファイナンス・リース取引は、所有権移転ファイナンス・リース取引と所有権移転外ファイナンス・リース取引に分類される。このうち、所有権移転ファイナンス・リース取引に該当するためには、どのような要件を満たすことが必要か12行以内で答えなさい。

問3 所有権移転ファイナンス・リース取引と所有権移転外ファイナンス・リース取引では、借手側のリース資産に係る減価償却方法がどのように異なるか5行以内で答えなさい。

問4 以下の資料に基づいて、(1)及び(2)のすべてに答えなさい。なお、計算過程で端数が生じる場合は千円未満を四捨五入しなさい。解答に当たっては計算過程を示すこと。

[資料] A社(3月決算)は、20X1年4月1日から備品をリースによって調達し使用している。このリース取引に係る条件は以下のとおりである。

(ア) 当該リース取引は、所有権移転外ファイナンス・リース取引に該当する。

(イ) リース期間は5年であり、リース取引開始日は20X1年4月1日である。

(ウ) リース料総額は40,000千円であり、年額8,000千円を後払いで毎年3月31日に支払う。

(エ) A社の見積現金購入価格は38,000千円である。また、A社の追加借入利率は年3.5%である。

(オ) リース物件の経済的耐用年数は6年である。

(1) リース取引開始日においてA社がリース資産及びリース債務として計上すべき金額を計算しなさい。計算に当たっては、下記の年金現価係数を使用しなさい。

[利率3.5%における年金現価係数]

期 間	年金現価係数
5年	4.515
6年	5.329

(2) 20X3年3月31日のリース料支払時(第2回支払時)にA社が計上すべき利息相当額を計算しなさい。なお、利息相当額の算定方法は原則法によるものとする。

設問3. 予算管理に関する以下の問1～問3のすべてに答えなさい。

問1 予算の目的とは何か、説明しなさい。

問2 予算差異分析にはどのような限界があるのか、説明しなさい。

問3 参加的予算管理の利点とは何か、説明しなさい。

設問4. 原価計算・管理に関する以下の問1と問2のすべてに答えなさい。

問1 標準原価計算による原価管理にはどのような限界があるのか、説明しなさい。

問2 ABC (Activity-Based Costing) に関する以下の(1)と(2)のすべてに答えなさい。

(1) ABCが登場した背景について説明しなさい。

(2) 伝統的な製造間接費配賦方法と比較して、ABCの計算方法にはどのような特徴があるのか、説明しなさい。

慶應義塾大学大学院

2015年度 商学研究科修士課程入試問題

## 分野別試験 経済学(ミクロ経済学)

<金融・証券論> <保険論> <交通・公共政策・産業組織論>  
 <計量経済学> <国際経済学> <産業史・経営史> <産業関係論>

以下の設問1、設問2のいずれかの問題を選択し解答しなさい。解答の際には選択した設問番号を明記すること。

設問1 以下の問1～問3にすべて答えなさい。(計算過程も示すこと)

問1 ある財の市場は完全競争(perfect competition)である。この財を生産する企業の費用関数(cost function)が、

$$C=X^2+100 \quad [C: \text{総費用 (total cost)}, X: \text{生産量 (quantity)}]$$

であるとする。

- (1) 固定費用(fixed cost)、限界費用曲線 (marginal cost)、平均費用曲線(average cost)、平均可変費用曲線 (average variable cost) をもとめなさい。
- (2) この財の価格 (price) が 60 の時、企業の供給量 (quantity supplied) はいくらか。
- (3) 企業の利潤 (profit) が正となるのは、この財の価格がどのようなときか。

問2 ある財に対する需要曲線 (demand curve) は  $Q=100-2P$ 、供給曲線 (supply curve) は  $Q=2P$  であるとする [Q: 数量 (quantity)、P: 価格 (price)]。

- (1) 需要曲線と供給曲線を図示し、1単位につき  $T$  の物品税(commodity tax)が課された場合の政府の税収 (tax revenue) と税の死荷重 (dead weight loss) の大きさを図で示しなさい。なお、課税後の数量、消費者が支払う価格、生産者が受け取る価格 (quantity, price faced by consumer, price faced by producer after the tax is imposed) を  $Q_T$ 、 $P_C$ 、 $P_P$  とし、課税前の数量と価格、物品税  $T$  とともに、図に記入すること。
- (2) (1) と同様、物品税を課すとする。需要曲線がより弾力的 (more elastic) な場合、死荷重は、(1) の死荷重より大きくなるか、それとも小さくなるか、答えなさい。ただし、供給曲線は変わらないとする。
- (3) この財の世界価格 (world price) は 10 である。この国は小国 (small country) であり、この財の輸入には 50%の関税 (import tariff) を課すとする。①輸入関税収入 (import tariff revenue) はどれだけか。②輸入関税を課す前と後で、国内需要量 (domestic quantity demanded)、国内供給量 (domestic quantity supplied)、輸入量(quantity imported)、消費者余剰 (consumer surplus)、生産者余剰 (producer surplus)、総余剰 (total surplus) はどう変化するか。なお、国内需要曲線 (domestic demand curve) と国内供給曲線 (domestic supply curve) は冒頭の需要曲線と供給曲線であるとする。

問3 情報や公共財に関する以下の問いに答えなさい。

- (1) 逆選択 (あるいは逆淘汰) (adverse selection) とはどういうことを指すか。中古車 (used car) の例を用いて説明しなさい。
- (2) 逆選択の問題を軽減するための戦略を1つあげて、それがどういうことなのか、簡潔に説明しなさい。
- (3) 公共財(public goods)には、非排除性 (あるいは排除不可能性) (non-excludability) と非競合性(non-rivalness)という特性がある。これらの意味を説明しなさい。

設問2 以下の問1、問2の両方に答えなさい。(計算過程も示すこと)

問1 完全競争市場(perfectly competitive market)において取引する消費者AとBはともに効用関数

(utility function)  $U = x_1^{2/3} x_2^{1/3}$  の値を最大化するように財1、財2の消費量  $x_1$ 、 $x_2$  を選択している。消費

者  $i(i=A,B)$  の財1、財2の初期保有量(initial endowment)はそれぞれ  $\omega_1^i$ 、 $\omega_2^i$  で与えられ、財1、財2の

市場価格(market price)は  $p_1$ 、 $p_2$  であると仮定する。

- (1) 消費者Aの財1、財2の消費量を  $x_1^A$ 、 $x_2^A$  として、彼の予算制約式(budget constraint)を書きなさい。
- (2) 消費者Aにとっての財1の限界効用(marginal utility)  $MU_1$  と財2の限界効用  $MU_2$  の値を、 $x_1^A$ 、 $x_2^A$  を用いて書き表しなさい。
- (3) 消費の限界代替率 MRS (marginal rate of substitution) が財1の限界効用  $MU_1$  と財2の限界効用  $MU_2$  の比率 ( $MU_1/MU_2$ ) に等しいことを、説明しなさい。
- (4) 消費者Aの財1、財2の最適な消費量  $x_1^A$ 、 $x_2^A$  を、初期保有量  $\omega_1^A$ 、 $\omega_2^A$  と市場価格  $p_1$ 、 $p_2$  を用いて表しなさい。
- (5) 消費者A、Bの初期保有量が  $(\omega_1^A, \omega_2^A) = (8, 4)$ 、 $(\omega_1^B, \omega_2^B) = (2, 6)$  で与えられるとき、市場需給均衡条件(market equilibrium condition)を用いて、この純粋交換経済の一般均衡(general equilibrium)で決まる財の相対価格(relative price)の値  $p^* = (p_1/p_2)^*$  を求めなさい。

問2 同質財(homogeneous good)  $x$  を供給する企業Aと企業Bが市場でクールノー型の数量競争(Cournot type quantity competition)を行っているものとする。企業A、企業Bの生産量(output)をそれぞれ  $x_A$ 、

$x_B$  とするとき、総費用(total cost)はそれぞれ  $TC_A = x_A$ 、 $TC_B = 2x_B$  である。財  $x$  の価格を  $p$  とすると

き、市場の逆需要関数(inverse demand function)が  $p = 6 - (x_A + x_B)$  であると仮定する。

- (1) 企業Aの限界収入(marginal revenue)を、各企業の生産量  $x_A$ 、 $x_B$  を用いて表しなさい。
- (2) 企業Aは、企業Bの生産量  $x_B$  を所与として自社の利潤を最大にするように生産量  $x_A$  を決定する。  
企業Aの満足すべき最大化のための1階の必要条件(first order necessary condition)を書き表し、その経済学的意味を述べなさい。
- (3) クールノー・ナッシュ均衡(Cournot-Nash equilibrium)での各企業の生産量  $x_A^*$ 、 $x_B^*$  および市場価格  $p^*$  の値を求めなさい。
- (4) クールノー・ナッシュ均衡での消費者余剰(consumers' surplus)  $S^*$  の値を求めなさい。